

浜岡原子力発電所4号機 低圧第3給水加熱器(A)の  
水位上昇を示す警報の点灯について

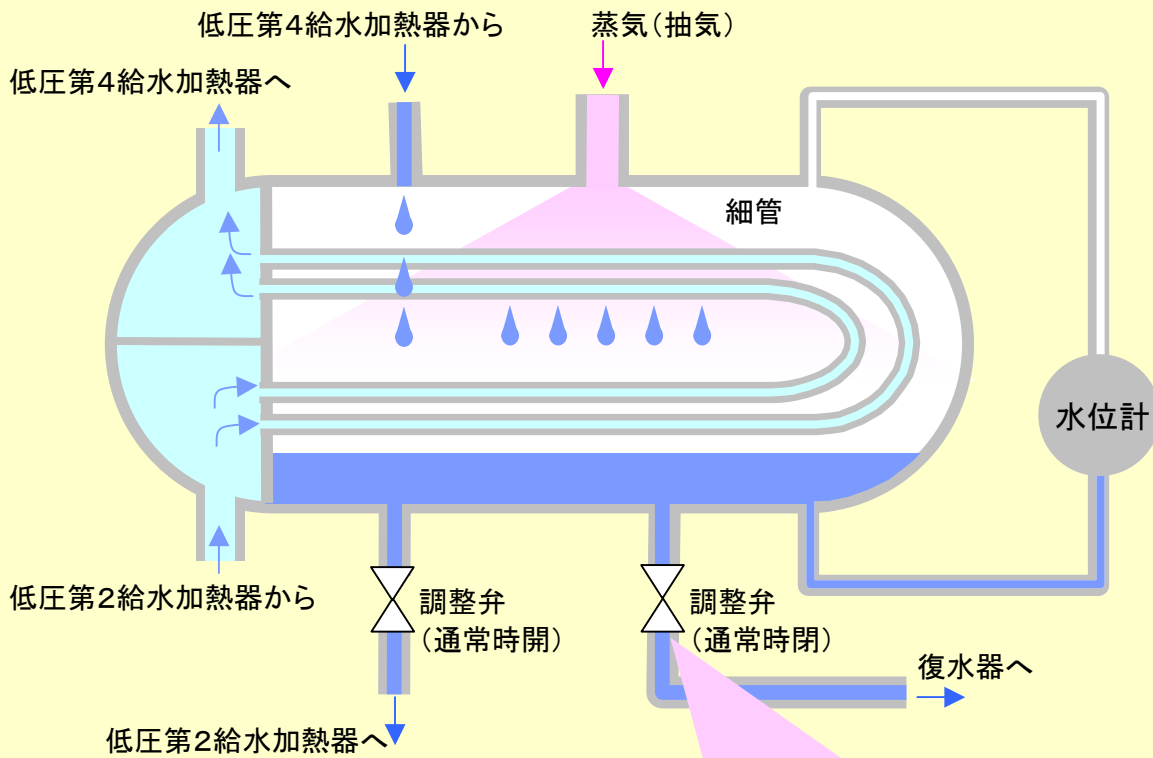
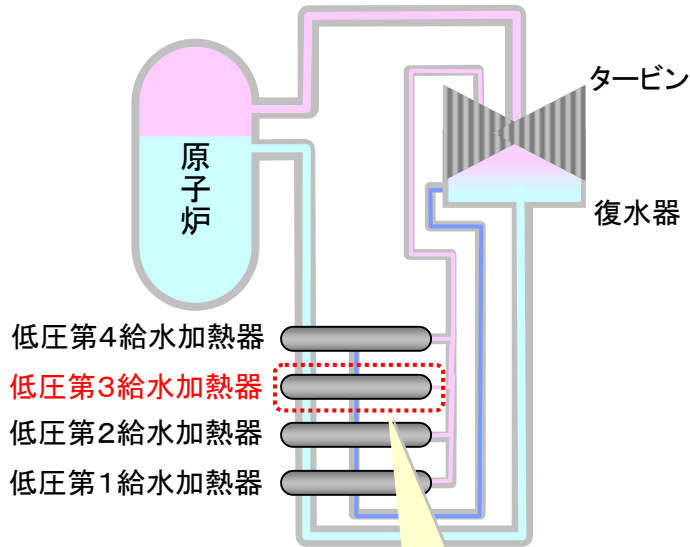
平成 20 年 7 月 25 日

対象号機	4号機（定格熱出力一定運転中） ：沸騰水型、定格電気出力113.7万キロワット
発生日	平成20年7月25日
発生時の状況	午前8時25分にタービン建屋内に設置されている低圧第3給水加熱器(A)(※)の水位が高くなったことを示す警報が点灯しました。 これに伴い、給水加熱器の水位が高くなった場合に、直接、復水器へ水を排水する調整弁(通常時は閉弁)が自動で開弁し、警報は消灯しました。 本事象により発電機出力が約1.3万キロワット(約1%)低下しましたが、その他に異常はなく、この状態で安定した運転を継続しております。
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
原因	今後、原因調査を行います。
<a href="#">お知らせ基準</a>	「表2-1 原子炉の運転中に運転に関連する主要な機器の軽度な故障があったとき」に該当します。

※ 低圧給水加熱器は、プラントの熱効率を向上させるために、原子炉への給水をタービンへ送る蒸気の一部（抽気）で加熱する機器です。第1段から第4段まであり、各段(A系)～(C系)の3基、合計12基あります。

以上

浜岡原子力発電所4号機 低圧第3給水加熱器(A)の  
水位上昇を示す警報の点灯について



- : 給水
- : 給水を加熱するための蒸気(抽気)
- : 給水を加熱した蒸気(抽気)の凝縮水
- ⊗: 開いている弁    ⊠: 閉じている弁

水位上昇の警報点灯により、通常時は閉弁している調整弁が開弁し、直接、復水器へ凝縮水を排水することで、加熱器内部の水位を調整しています。

- 低圧給水加熱器は、原子炉への給水をタービンへ送る蒸気の一部で加熱する機器です。
- 給水は、低圧給水加熱器の細管内部を流れることで蒸気(抽気)によって加熱され、上段の低圧給水加熱器を経て原子炉に送られます。
- 給水を加熱した蒸気(抽気)は凝縮水となって加熱器内部に溜まります。
- 凝縮水の水位は、下段の低圧給水加熱器を経て復水器に排水されることで一定に保たれますが、水位が上昇した場合は、通常時は閉弁している調整弁が開いて、直接、復水器に排水します。